商工会青年部活動報告

通常総会

篠山市商工会青年部通常総会を平成18年4月11日に篠山商工会館で開催しました。

合併後3年目を迎えたものの、まだまだ組織は未成熟であり、問題も山積みの状態。

総会での部長あいさつで、「今年は親睦を重点的に行います！」と述べ、出席部員一同が更なる部員相互のネットワーク強化と結束力のアップを誓った。

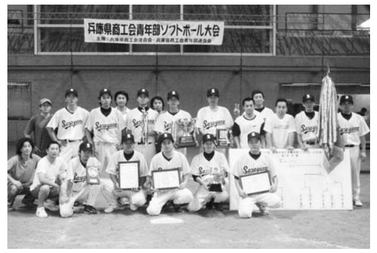
提案議案も異議無く承認された。その後年度末をもって卒部された6名の方に、長年にわたり地域振興に貢献された事に感謝し、感謝状を贈った。

ソフトボール

平成18年7月17日篠山市商工会青年部が合併後、2回目となる今回も前年度に続き、優勝を目標にドリームチームで挑んだ丹波地区商工会青年部ソフトボール大会が雨天のため、囲碁ボールへと変更となった。

囲碁ボールは見た目とは違い意外と難しく体だけではなく頭も使うが楽しいスポーツであった。

無論、囲碁ボールの練習など全くしていなかったため、不利な状況ではあったが、篠山市商工会青年部が見事優勝、2年連続で県大会出場を果した。



平成18年9月18日2年連続での出場となる県大会が但馬ドームで行われた。今回は前年度一回戦敗退の屈辱を晴らすべく、市野吉記監督のもと県大会に挑んだ。

第1試合は香住町商工会青年部との対戦。緊張のあまりエラー続出、辛くも8対7で勝利した。

第2試合(準決勝)では、ホストである養父市商工会青年部との対戦。緊張も無くなり15対7で快勝した。

いよいよ決勝戦、優勝候補の安富町商工会青年部との対戦。試合前から半ば諦めムードがチームに漂っていた。

しかし、逆に試合が始まればリラックス状態で試合に挑む事が出来、終わってみると15対5と大差で勝利し、県大会優勝を手中に収めた。

また、最優秀選手賞を小林信通君が獲得し歓喜の渦に包まれた。

来年度は、追う立場から追われる立場になった。

デカンショ祭に出店

青年部全体事業として平成18年8月15日・16日の2日間にわたり開催された第54回丹波篠山デカンショ祭を盛り上げるために売店の出店を行った。

売店ではフライドポテト、唐揚げ、ジュース類の販売を行った。

揚げ物を調理している周辺は夏の暑さと強烈な熱気で悪条件。その上、予想を上回る大盛況で急遽食材の調達に走り回るという事態にも見舞われる等、悪戦苦闘しながらもなんとか2日間を乗り切った。

今回の事業を通して、調理・販売という慌しさの中ではあったが、部員相互の交流・達成感の共有などから、より団結力が深まった。

MGゲーム研修会

全体事業として、平成18年11月18日 ささやま荘にてMGゲームが開催された。短時間(半日)ではあったが、研修会が始まると、参加者全員が仮想企業の利益を目的に、緊迫した雰囲気の中でMGゲームに取組んだ。

経営の考え方、雇用の方法等の違いによって自己資本が大きく変わり、経営バランス、企画の大切さが実感でき、決算期には「あの時こうすればよかった…」といった意思決定の難しさが数字(金額)になって表れる。

そんなMGゲームは、自分が会社を代表しているという責任感、経営学、会計学とは何なのかを考えさせられ、またそれによって何かヒントになるものを導かせてくれた。

MGゲームとは？

参加者各自が会社を設立し、自ら社長となり設備投資・人の採用・商品仕入・販売・広告・研究開発から決算書の作成まですべてを行うシミュレーション。

篠山市商工会青年部は… その他にこんな事業を実施・協力しています。

- 4月 桜の防虫駆除……【篠山支部】
- 5月 フリーマーケット黄金市……【篠山支部】
- 7月 桜の下草刈……【丹南支部】
- 8月 にしきふるさとまつり協力……【西紀支部】
- 9月 桜の防虫駆除……【篠山支部】
- 10月 丹波たんなん味覚まつり協力……【丹南支部】
- 丹波ささやま味まつり協力……【篠山支部】
- 丹波焼陶器まつり出店……【今田支部】
- 1月 いのしし祭企画・運営……【篠山支部】
- 2月 桜の防虫駆除……【篠山支部】

デカンショ祭 企画・運営

開催日　平成18年8月15日・16日
場　所　篠山城跡三の丸広場

第54回丹波篠山デカンショ祭は、デカンショ祭の本質である「踊り」をメインに、ヤグラを中心とした会場演出により、デカンショ祭でしか味わえない「篠山の夏」を表現することに力を注ぎました。

踊りでは、総踊りはもちろんのこと、競演会、Ｊr.競演会など踊りの全てを中央会場のヤグラで行ったほか、総踊りに旧バージョンの踊りを取り入れることなどにより、多くの方々に踊りを楽しんでいただけたと思います。

また、会場演出では、ヤグラに竹と灯りで装飾を施し、周辺会場には竹灯篭・たんころ・水上あんどん等を使って、会場全体で「和」の雰囲気を演出しました。

デカンショ祭の原点に戻った第54回丹波篠山デカンショ祭は、例年にない来場者を迎え大盛況のうちに幕を閉じました。

現在、第55回に向けての取組みを始めておりますので、ご期待ください。

夏だ！ わいわい フェスティバル

開催日　平成18年7月26日(水)
場　所　ハイマート佐仲

8月26日に小坂のハイマート佐仲にて、西紀地区の小学生や保護者ら参加者130人で開催した。

今年は西紀中学校の2年生11人も、各グループのリーダーとして小学生をまとめてくれた。まず、各グループで思い思いの材料を入れてカレーを作りコンテスト行った。その後、8月に開催された「にしきふるさとまつり」の会場を彩る灯籠の絵を描いた。

メインイベントは、参加者一人一人が将来の夢や願い事を描いた凧をつなげて、120mの連凧を作った。施設内の佐仲ダムにある144段の階段に整列した子ども達が、スタッフの合図のもと連凧を空に放つと風をつかんだ凧は子ども達の夢と共に上昇し、ゆらゆらと舞い上がった。

焼き物の里のイルミネーション
～雪花に先んず 其の弐～

開催日　平成18年11月13日～平成19年1月8日
場　所　兵庫陶芸美術館

今田支部イルミネーション事業は、昨年度より兵庫陶芸美術館敷地内において行っています。

今年度で二度目という事もあり、作業も部員の協力の下、スムーズに行うことが出来ました。

また、今年は点灯式イベントを行い、女性部の協力も得て、豚汁、焼そば、綿菓子等を出店。バルーンアートは、子ども達に大変喜ばれ、大好評でした。

もちろん、電飾の方も昨年より電球数も増え、より輝きに充ちたものとなり、訪れた人々の笑みを照らしてくれました。

たんなん商工まつり協力

開催日　平成18年9月24日(日)
場　所　四季の森生涯学習センター前広場

たんなん商工まつりは、事業者が地域住民と親しく交流し、地域の活性化を促進しようと願い毎年開催しているもの。丹南支部でも恒例のもちつき大会で大いに祭りを盛り上げた。

今年も杵でついたお餅はついたそばから行列が出来るほど飛ぶように売れ、お客さんはつきたて熱々のお餅をその場で頬張っていた。また食べるだけでなく、つきたいというお客さんも沢山おられ会場は活気が止むことがなかった。

おかげさまで、20臼をつき部員達は達成感と筋肉痛を同時に感じることができた。

丹波篠山地区商工会青年部主張発表大会　最優秀賞受賞(抜粋文)

―青年部活動と地域振興・まちづくり―

「地域をつなぐ『輪』」

弁士　松浦雅彦

『お前ら、子供の頃に一回ぐらいはデカンショ祭にいった事あるやろ？楽しかったやろ？その楽しかった思い出を、自分達の子供達にも残してやりたいと思わんか？』

これは私達青年部のメンバーが、デカンショ祭の企画に行き詰まり、居酒屋でグチを言っている時、そこにたまたま居合わせた、青年部の先輩の言葉です。

青年部ではデカンショ祭の数ヶ月前から、週に何回も会議を開き、検討を重ね、7月の末頃からは、毎日のようにうだる暑さの中で、様々な準備作業に取り掛かります。

ところで皆さん、『地域振興』とよく聞きますが、どんな事が『地域振興』だと思いますか？私はこれまで正直ピンときませんでした。

しかし、青年部活動で、篠山ならではの環境や伝統などを活かす取り組みを行い、住民の「地域への愛情」を育てる事が『地域振興』の一歩かなと気づき、「俺らの子供にも、篠山のエエとこ、残してやって、故郷を好きでいて欲しいもんなぁ」と改めて思っています。

そんな取り組みは、デカンショ祭で言うと、数年前から始めた、小学生や幼稚園の子供達による「Ｊr.競演会」。また、一昨年からデカンショ祭を通じて、地域への思いを育んで行きたいという考えから「中学生ボランティア」を募っています。参加してくれた子供達からは「来年も、デカンショ祭で、デカンショを踊りたい。」「しんどかったけど、デカンショ祭に携われて嬉しかった。」というような声が聞こえてきます。

そして、デカンショ祭のメインである「日本最大級のヤグラ」での総踊り。踊り好きの酔っ払い等で、大混雑する踊りの輪を、青年部員が整理・誘導し、会場いっぱいに、幾重もの踊りの『輪』が出来上がった時、自分達が苦労してやってきたことが報われた…という達成感で、胸がいっぱいになります。

しかし今、市町村合併による「地域」という枠の広がり、また、商工会青年部の合併から、戸惑いが生まれ混乱することも多々あります。ですが考えてみて下さい。「自分達の地域を思う気持ちは、みんな一緒だ」ということを。

デカンショ祭には、不変のコンセプトがあります。そのコンセプトは『輪（わ）』です。

・盆踊りであるデカンショ祭の象徴とも云える…踊りの「輪」。
・篠山市、全ての市民の参加を望む…市民の「輪」。
・そして、それらを繋ぐ…心の「輪」。

変えてはならない大切な「輪」を守りつつ、新しい「輪」を創っていく、という意味が込められています。

このコンセプトを頭において、デカンショ祭に取り組み、感じた事は、自分達の「地域」に対する思いを守りながら、お互いの心を繋ぎ、より大きな「地域を思う輪」を広げていく…。この事こそが、今求められているのではないでしょうか。

私達の子供達に「誇りある地域を伝え」そして「地域への思いが、後世にまで繋がっていくように」、青年部が中心となり、篠山市という大きな「ヤグラ」のもと、地元を愛する人たちが輪になって集い、地域を盛り上げていくことを目指して…。